

特色ある学校づくりのための公募型人事異動 公募校の取組紹介①

公募型人事異動を活用し、特色ある学校づくりに取り組んで1年目の東海村立照沼小学校が、取組の成果と今後の課題について以下のとおりまとめていただきました。次号は、2年目となる水戸市立第二中学校の取組を紹介します。

なお、本年度は県内7校が公募校となり、教員の出願を受け付けています。管内では、水戸市立稲荷第一小学校【コミュニケーション能力の育成】、茨城大学教育学部附属幼稚園と茨城大学教育学部附属小学校【教育実践の推進】の3校となります。

詳細は、教育情報ネットワークにて12月8日（木）まで動画配信していますのでご覧ください。

東海村立照沼小学校

①申請した経緯

本年度から、本校では「授業時数特例校」の指定を受け、算数の年間授業時数を1・2年は30時間、3・4年は20時間、5・6年は15時間増やし、問題解決の力の向上に大きく影響する、論理的思考力の向上を目指した教育課程を実施しています。そのため、中学校数学の免許を所有し、小、中学校の勤務経験を有する教員の公募型人事異動を申請し、算数専科の教員を配置していただきました。

②公募により配置された教員が担っている役割

本校は、1学年1クラスの小規模校で、3～6年の算数科の全ての授業を専科教員が担当し、小・中の算数・数学科の系統性を踏まえながら、指導の重点化を図る単元を年間指導計画の中に位置付けて指導を行っています。

さらに、全国学力学習状況調査や学力診断のためのテスト結果の分析等を生かした「算数科以外の教科における論理的思考力を高める授業の在り方について」の研究においても、専科教員が中核的役割を担っています。



③成果と今後の課題

実践研究の成果については、下表の「主な指標」を用いて検証を進めています。

今年度、上半期の取組の成果としては、次の2点があげられます。

- ・算数科を中心に、理由や根拠を大切に授業を展開したことで、「自分の考えの理由や根拠を話す（書く）ことができる」児童の割合が増加している。
- ・算数科の専科指導を進めることで、学級担任の空き時間が確保でき、他の教科の授業づくりのアイデアを考える時間が増えた。

今後の課題として、教員が、児童一人一人の思考力について、しっかりと見取り、伸長へ向けた個に応じた支援をさらに進めていくことが必要であると感じています。



	主な指標《目標値》	達成状況
①	算数科の各単元テストの思考力を測る問題の各児童の正答率8割《100%》	全体の34%達成 (R4.10)
	算数科の各児童の思考力を問う問題の平均正答率 《今年度比 次年度+5%》	次年度検証
②	学力診断テストの各教科の思考力を問う小問毎の正答率《県平均の+2ポイント》	1月検証
③	「自分の考えの理由や根拠を話す（書く）ことができる」児童《80%》	70%(R4.3)→78%(R4.7)
④	「理由やわけを説明しながら自分の考えが言える（書ける）児童の育成に努めている」（授業での問い返し、日々の関わりなど）という教員《90%》	63%(R4.3)→90%(R4.7)